



同窓會長
宗像 義政

歴史と縁に感謝して

来ノ津川に若アニ舞る初夏の良き日、出水中央高校の創立六十周年記念式典が举行されんに当たり、同窓会を代表して心からお祝い申し上げます。

大きな喜びと誇りを感じます。六十年前といいますと、昭和二十五年でございます。私は五歳の少年でした。当時は水出が生きることに誰もが精神だったと思います。そんな時代の中で次の世代の子供たちの教育を考え、この水出のことを考え、この国のことを考え、本校の産声が上がつ

同窓生はもちろんのこと現在の在校生諸君が勉学やスポーツで数多くの実績を上げております。周知のことおりであります。在校生の皆さん、ますますお通して顶けるキーワードは、出水中央高等学校の歴史」と「縁」ができたことであります。この「縁」を皆さんに受け継いでくれた御両親と先生

方に感謝することです。後輩
自分に引き継いでください。
諸君へ引き継いでください。
それこそが、本校の基本教育
理念である「和の精神」だと
思います。このことを私は出
水中央高等学校で学びました
どうか皆さんのお力かしい未来
を自分自身の手で掴み取って

創立60周年式典 等

創立60周年式典 等

本校は、創立60周年を迎えたことを祝して下記のような行事等を行いました。

創立 60 周年記念式典・講演会・演奏会	
○期 日	平成 21 年 6 月 12 日(金)
○時 間	9 : 00～12 : 40
○場 所	出水市文化会館
○参列者 計	1,016 名 生徒(860)・職員(96)、同窓会役員(6)、 P T A 役員(11)、職員 O B (8)、吹奏楽部保護者(31)、 小松由佳氏と関係者(4)。当日、野球部は大会のため、 職員(2)部員(31)の 33 名は不参加。
○日 程	8 : 30～S H R, 12 : 40～S H R (出水市文化会館) 現地集合解散
記念式典 9 : 00～9 : 40 (40 分)	
1	挨拶は、理事長、学校長、同窓会長、 P T A 会長(代理副会長)、生徒会長の 5 名。
記念講演会 10 : 00～11 : 40 (100 分)	
2	講師 小松 由佳氏 (K 2, 日本人女性初登頂 2006 年 8 月 1 日) 演題 『K 2, Passion Creates Possibility —夢に向かって一歩の重み』
記念演奏会 11 : 55～12 : 40 (45 分)	
3	演奏曲目：詩人と農夫、青空と太陽、花、七夕、 旧友、キエフの大門
記念第 35 回文化祭	
4	平成 21 年 6 月 6 日(土) 8 : 45～15 : 50 文化祭テーマ「Color Smile～今、君は輝く主人公～」 入場者数 546 名 特進課程1年2組のモザイク「本校創立 60 周年」など
記念第 48 回体育祭	
5	平成 21 年 9 月 5 日(土) 8 : 50～15 : 45 男子のバネル「出水中央 60 C」、女子の「祝 60th」など
記念同窓会総会	
6	平成 21 年 8 月 30 日(日) 17 : 30～21 : 00 ホテルキング、吹奏楽部の記念演奏(17 : 55～18 : 35) 参加者数 208 名 (同窓生 133 名、職員 O B 7 名、現職員 68 名)
記念タオル	
7	創立 60 周年のお祝いのため 2,000 枚作成
プログラム	
8	B 4 ピンク 1 枚、表裏 4 ページの様式で校内で印刷。 当日全員に配付



創立六十周年記念式典

創立六十周年記念式典は
六月十二日（金）九時から
四十分間、出水市文化会館で



記念式典等への参列者は、本校の関係者だけに留め、同窓会役員、PTA役員、職員OB、そして、保護者の希望者の出席で行いました。



祝創立六十周年
記念式典會場

創立六十周年 記念演奏会

創立六十周年 記念演奏会



○日時：平成二十二年六月廿二日 十二時四十五分
 分から十二時四十五分

○場所：出水市文化会館

○曲目：詩人と農夫 青空と太陽、花、七夕、田

○指揮：福島路士先生 キエフの太門

○演奏：吹奏楽部九十二名

○部長：鍛田和花さん

(教養課程三年)

記念演奏会は、福島路士先生の指揮で本校吹奏楽部が九十二名によって四十五分間行いました。演奏会は「最後の詩人と農夫」の織地でマ



記念タオル

創立60周年記念講演会

講演題 小松 由佳氏 (K2, 日本人女性初登頂 2006年8月1日)
『K2, Passion Creates Possibility - 夢に向かって一步の重み』
(情熱が可能性を生み出す)
平成21年6月12日(金) 10:00~11:40 出水市文化会館

A man stands behind a wooden podium on a stage, speaking into a microphone. He is wearing a white shirt and dark trousers. In front of him is a small table with a vase of flowers. To his right is a large projection screen showing a landscape with a prominent snow-capped mountain. The screen also displays some text and icons. The background features a banner with Chinese characters "祝創立60周年".

大学山岳部での活動など

実は私はこの出水に来たのは二回目なんですね。昨年、沖縄のサトウキビ畑で自ら軽自動車に乗って、正月から旅に出た、その途中沖縄を目指して旅に出た、その途中にこの出水に立ち寄ったことがありました。ちょうど二月だったんですねが、鶴の飛来を見たのをどうも印象的になつていて覚えていて、そいつことで、今ひとつでも思い出深いこの土地で、またこういった講演をさせていただけることをとても嬉しく思っています。よろしくお願ひします。

出水との関係



小松 由佳氏

な挑戦をしていくことになります。この挫折の時期に私を支えていた言葉がまるで「Passion Creates Possibility」だった。

世界最高大學生卒業後初めて「エグゼクティブ」で登壇に失敗してしまいました。そこで大きな挫折を経験しました。大学卒業後は情熱が冷め、やめようか悩みました。しかし、山が好きであること、これまで人から評価を気にしていた自分がないことを気になります。新たな挑戦をしていくことになります。この挫折の時期に私は支えてくれた言葉がまるで「Passion Creates Possibility」だった。

日本ではやはりまだ男女社会で
ここにいる女性の皆さんも確かに
社会に出て行く中で、たくさん
苦労することがあると思います。
負けないでください。逆に、
女性だからできる考え方だとか
女性だからこそできることなどた
さんあります。

A man in a green jacket and white helmet stands on a snowy mountain peak, holding a small Japanese flag. A bicycle is visible in the foreground.

K2へ挑戦

さて、私たちは K_2 に登るのに 約二か月かかりました。酸素が薄い環境に慣れるのに、登ったなり下つたりを繰り返さなければならぬから。また、食料や装備を一気に運ぶのが難しいからです。ベースキャンプ（五二〇メートル）から、起点に C_1 （六四〇メートル）、 C_2 （七一〇メートル）、 C_3 （七九〇メートル）を作りながら登りました。

前日まで自指して登り始めた時、一時間早く出発していたら巻き込まれてしましました。いかに人間か弱力かを思い知った瞬間です。人間の自然の進歩で左右される敵いしい環境なのです。その後され歩でも気を抜けば落ちてしまうような箇所をたくさん歩いていきました。

したを一週間かけてベースキヤングの宿題をした。またまだ二〇メートル位)まで歩く重労働ですが、一日六〇円で貰った金です。物語の遠いところに驚きました。ボーラー達の寝床は石枕を積み、ビニールのシートを張っただけの簡単なものです、マイナス二十度、スケート場が全く違うなどを感じました。このよう、山に登るだけではなくて現地の人とふれあつたり、文化の違いを感じたりして、ものすごく

ました。何度も死ぬと思いました。やはり死を恐れません。人間の無力さを感じさせられました。しかし、そういうときこそ命の実感があるんですね。なぜ山に登るか?それは、やはり生きている実感が何よりもあるからです。命としてここに存在するという実感。これががあるからやめられません。また、山登りでは運不運の要素が大きいです。でも、私は運というのではなく自分がこれまでできたことの結果ではないかと思つ

C1・C2では、平地がないのでテントを張るが大変でした。C2では積み重ねて平地を作りました。また、前の登山隊が残したテントの残骸があり、その中には人間の遺体も残っていました。さらに、人間の手・頭皮、骨の入った登山袋がかなり落ちていました。平地であれば腰を抜かすような光景ですが、ここでは不思議な親近感を感じてしましました。

その後の登山中は、岩がもろくはじぶんに自分に向かって落ちてきて

A photograph of three climbers standing together outdoors. The climber on the left is wearing a blue jacket and a helmet. The climber in the center is wearing a blue jacket and a helmet. The climber on the right is wearing a red jacket and a helmet. They are all wearing climbing gear, including backpacks and ropes.

生きているかお互いに確認し合いながら寝ました。そして、この日は運良く寝ました。私たちには生き抜くことができました。生死は紙一重です。

朝、朝よりは真っ暗なのは、すばらしい太陽の光がぱあっと当たった気がしました。自分は死んだと思ったかもしれませんが、実は生きていることがわかり、涙が止まりませんでした。太陽の光が「生きなさい」と言ってくれたよう気がしたのです。不思議な体験でした。

下を考へました。悪いことに、木坂を始めたのが十六時五十分。日没まで時間がなく、体力も五分酸素も少ない状態です。日が暮れても真っ暗中を歩きました。気がつくと二十四時間近く、飲まず食わずで歩いていました。眠くてい仕方がなく、歩いても風景を見てしまふのです。危険な状態でした。

八二〇〇メートルの地点でついにビバークを決意しました。酸素もなくなっていました。雪の斜面にかかるうじ音を聞きつづけ、青木さんと音を寄せ合つて作戻しよ

テップを着実に踏んで、着実にこなしていくは、確かにこれが出来ます。なんどか近づいて、そして、自分の情熱次第で叶えることが出来ると思います。自分の可能性を信じて欲しいと思いますが、最後になりましたが、私はこれからも新しい挑戦をたくさんしていきたいなと思っています。多く、自分にしかできないことは、自分ができる最高の生き方かがしたいなと思います。一人の人間として輝いていたいなと思っています。皆さんも、自分の可能性というのも、自分の夢を持つて、自分の可能性を一番發揮させて、あけて、夢に向かって、一日一日を輝いていてください。そして一度きりの人生、思い切り豊かに楽しんで生きてください。今日はどうもありがとうございました。

まさに重ねでできていると思うんです
強やすから、高校生の皆さんにこそ
追われていると思いますが、今
という時間は今しかないんだたと
いうことをよくじのながら過ご
していくのがいいなと思って
して欲しいなと思います。

私は心中で座右の銘として
常に置いている言葉があります
それは講演の最初にも述べた
Passion Creates Possibility
いう言葉です。これは「情熱が
可能性を生み出す」という言葉

まとめのお話

【講演を聞いて】

看護學科・基礎課程
三千一組 宇野 前野士

○講師 小
昭和57年秋田市生まれ。秋田北高校入学と同時に山岳部に入部。平成11年熊本国体、平成12年岐阜インターハイ出場。東海大学山岳部では初の女性主将を務め、海外遠征でも活躍。平成18年8月南南東リフからK2に登頂。同年度には、朝日スポーツ賞受賞、植村直己冒険賞受賞、秋田県民栄誉章受章。

● 講 師 小松 由佳氏プロフィール ●

標高こそ世界第2位であるが、険しい地形のため、世界で最も困難な山といわれているカラコルム山脈のK2(8,611m)。平成18年(2006)8月1日、この頂に小松由佳隊員(当時23歳)と青木駿隊員(当時21歳)の2人が立った。それぞれ日本女性初登頂、年少登頂(当時21歳)の「タイトル」を獲得した。K2は予想以上手こわい相手だった。K2の登頂者は、253名で女性は小松隊員含めて8名しかいない。平成18(2006)年7隊が挑戦、登頂したは東海大学とイタリア隊の4名だけだった。

